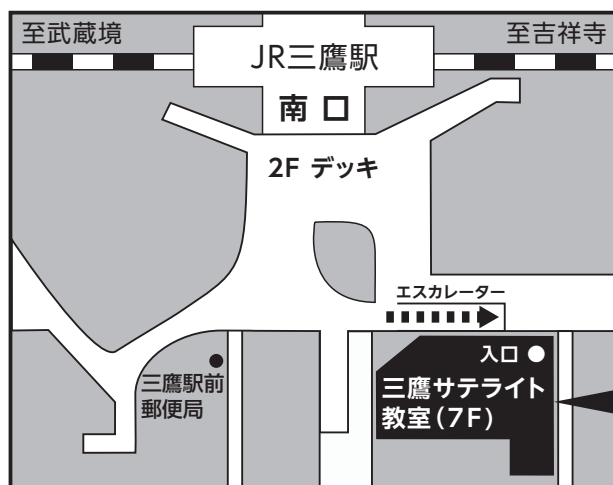


漢詩を読む ― 後漢の詩群 ―

受講料 (振込額)	12,500円			
必携テキスト	_____			
講座概要	曜 日	水曜日		日 程
	時 間	13:00～14:30		10月11・25日 11月15・29日 12月13日
	回 数	全5回	定 員	40名
	開講場所	三鷹サテライト教室 7F / 大教室		
講 師	元國學院大學講師 小笠原 博慧 (おがさわら ひろとし)			
	1941年生まれ。1965年、私立高校教諭(漢文)。1974年、公立高校教諭(国語)。1994年、武蔵野女子学院高校教頭。1999年、同中学・高校校長。その間1975年、國學院大學講師(漢文学)。1982年、市立大月短期大学講師(文学、日本語)。1988年、武蔵野女子大学講師(仏教学、日本仏教史)。同大学仏教文化研究所所員。1988年、福泉寺住職。			
内 容	後漢（AD25年～220年）の詩には二つのポイントがある。また、形式が多様であり、自由な意志や感情がそのまま表現されている。人間関係も様々であり比喩表現も見事である。季節感や何かに気持ちを託す表現は唐詩の先駆けでもある。 一に「楽府（がふ）」がポイントである。楽府とは、歌謡を採集し新たな歌詞と共に音律を整えた官署である。そこから新詩体が成立し、流行した。これが「楽府」である。 祭祀歌、人生、戦争、生活苦、恋情などをテーマとし、無名の作者の佳作が多い。 二に、「古詩十九首」を始めとする無名氏の「古詩」の類である。〃十九首〃は古詩の初めとされ、五言詩の最上と称され、影響は大きい。また、古詩から截(せつ)絶(切りとる)したような古絶句(四句)もあり、多彩な詩群は読み応えがある。			
	①10月11日：楽府と古詩十九首 ②10月25日：// ③11月15日：// ④11月29日：古詩十九首と古絶句 ⑤12月13日：//			



武蔵野大学 三鷹サテライト教室



〒181-0013
東京都三鷹市下連雀3丁目26-12
三鷹三菱ビル

JR中央線・総武線
東京メトロ東西線
JR 三鷹駅 南口より徒歩1分

三鷹三菱ビル 7F
(三菱UFJ銀行のビル)

1F入口からお入りください

- 「受講の手引き」を必ずお読みの上、ご参加ください。